

第7号

愛鳥教育

1982

7月

〒150 渋谷区宇田川町37-10、405 (財)日本鳥類保護連盟内 愛鳥教育研究会

いま、なぜ愛鳥教育なのか

とにかく今、愛鳥活動をなんとか教育の中に取り入れたいと言うのが、学校の現場の先生方と私たち自然保護団体の関係者の希望であり、願望である。

先生方はいろいろな課題をかかえている教育現場の中で、最も必要な情操教育の一つの手段に愛鳥教育がならないかと試行錯誤をくりかえして来られた。また、保護団体は、今人類の存亡まで問われる環境破壊の中で、自然を大切にしたい気持ちを子供の時から教育を通じてなんとか訴えられないかと、やはり試行錯誤をくりかえして来た。

しかし、先生方が多くの仕事をかかえる中で、また、自然のしくみや鳥の知識をえられない中で愛鳥活動を学校の中で位置づけるのは困難であった。また、保護団体側は、学校現場の実情を知ら

ないばかりか、現実には次から次に起きる保護問題に追われ、基本的な教育の分野になかなか足を踏み入れることができなかった。

しかし、今「愛鳥教育研究会」の発足を通じ、また何回かの会合を通じ、まったく違う分野から同じ目的で集まった教育者と、保護団体が今一つになった。目的が同じ者同士が今目的を確認し合っている。これが、現在の「愛鳥教育研究会」であり、いわばスタートラインにラインアップした状態である。

やることは、山ほどあるし、動けばさらにいろいろな問題にぶつかるだろう。しかし、今やらなければならない。子供たちのためにも、野鳥たちのためにも……。

(日本鳥類保護連盟・松田道生)

第7回 研究会の報告

6月5・6日に日光で研究会・総会を開きました。総会では各議題が承認されました。次の学校発表は、都会で愛鳥活動に取り組んでいる世田谷区立二子玉川小学校でした。学習計画などの詳しくは愛鳥教育3号に載せましたので、この号では発表に使ったスライドによって、活動を紹介いたします。また、意見交換会では普段感じている問題が先生方から出され、夜半まで熱心に話し合いが続けられました。

2日間の実習で見られた鳥は39種でした。日光は関東地方では遠足によく利用する場所です。参考に、この時期に日光でどんな鳥がみられるか、6・7ページにあげてみました。以下、詳しい報告です。

学校発表

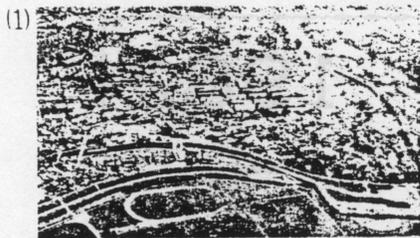
世田谷区立

二子玉川小学校

赤城 敏子

地域の特性を生かした豊かな人間性の育成をめざして、活動をすすめてきている。学校の組織としては愛鳥委員会・野鳥クラブがあり、研究・保護両面から活動をしている。また、昭和53年から学校裁量の時間として「二子タイム」を設定、全校的な活動の増進をはかりながら、自然に親しみ児童に生命尊重、自然を大切にしたい心を養ってきている。

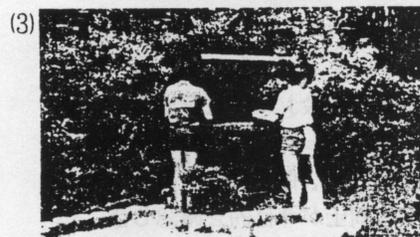
『街の中の野鳥』



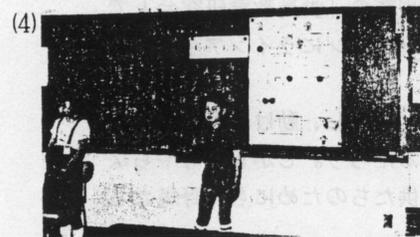
(1) 私たちが住んでいる二子の街です。緑が少なく、デパート、マンションなどの多い街です。それでも、近くには多摩川が流れています。このような街で私たちは、愛鳥活動を続けています。



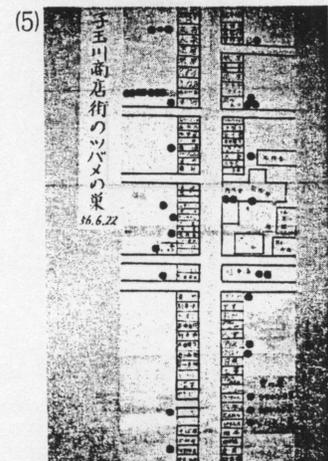
(2) この街に少しでも野鳥を多くと思い、図工室でシジュウカラ、ムクドリなどの巣箱を作っているところです。最初にくぎを打つ時と、ふたをつける時が、一番大変でした。



(3) 野鳥園にある、このえさ台は、学校のみinnで作ったものです。えさ台にはパンなどを置いて、下に水場、砂場などもあります。こういった所でよく野鳥を見かけます。

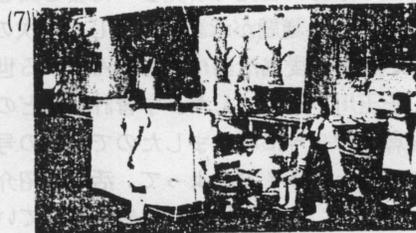


(4) 学校に掛けた巣箱の調査結果です。巣箱にどれくらい巣が作ってあるか、早いものはヒナがどのくらいいるか、みんなが胸をわくわくさせています。



(5) これは、学校の前のツバメの巣の分布について調べたものです。商店街には毎年たくさんのツバメがきます。調べてわかったことは、巣は東向きに多いこと、ツバメはこの場合食料品店に巣を作ることが多いようだという事です。赤い色で囲んである店が今年、黒い方が去年です。赤丸は巣のあったところで、黒丸はひながいたところ、茶色はこわれていたところです。

(6) 学校についたツバメの巣です。ひなは大きな口をあけて、えさを待っています。

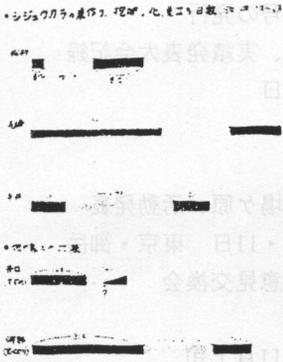


(7) 朝の集会時間に、野鳥クラブや愛鳥委員会が観察のまとめや、創作劇をして、全校の児童によくわかってもらいます。



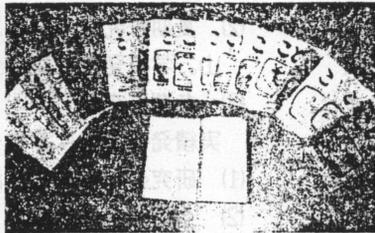
(8) 巣の分析をしているようすです。例えば、シジュウカラならコケが何g、毛やわたが何gというように、てんびんばかりで測っているところです。巣の中には、ビニールのひもや、かみの毛などもありました。

(9)



(9) シジウカラのひなが私たちの作った巣箱でかえりました。親鳥が巣を作り始めてから、ひなが巣立つまでをグラフに表してみました。オレンジ色が巣作りからたまごを産むまで、黄色が卵をだいてからひながかえるまで、青がひなが生まれてから巣立つまでです。同じシジウカラでも日数などに違いがあるのはどうしてでしょう。

(10)



(11)



(12)



(10) 私たちの学校が、愛鳥モデル校になってから作り始めた文集「ことり」です。これは、春冬2回4号から低・中・高学年の分冊につくられ、現在までに18冊が発行されました。お母さん方にも関心もたれ、「ひなを拾って育てた」などの観察記録もよせられています。

(13)



(11) ケガをしたヒヨドリを育てたところ、とてもなつきました。このあと、放す訓練をして、4ヶ月後くらいに一人立ちさせました。

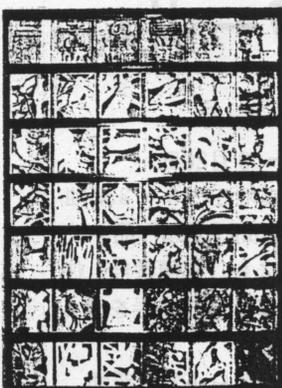
(14)



(12) 私たちの近くにある多摩川は、水はあまりきれいではありませんが、毎年たくさんの冬鳥が渡ってきます。

(13) 私たちは冬鳥の来る季節になると月1回位こうした探鳥会をしています。二子玉川小の広報部のお母さん方も取材にきたりします。みんな双眼鏡や図鑑を片手にとっても真剣です。

(15)



(14) 愛鳥委員会では、みんなで観察したことを地図にまとめたり、それを朝の集会で発表したり、学校内にかざったりします。

(15) 二子タイムを利用した、愛鳥活動は春のポスター作りから始めて、ムクドリ、ツバメの巣の観察、近くの多摩川での冬鳥探鳥会、4年生全員の巣箱作りと自宅などへの巣箱かけ、年2回の文集作り…と、これは、卒業記念の作品です。

地域の商店街や、お母さん方の協力を得て二子タイムもすっかり地域に溶けこんできました。先輩たちはいろいろなものを残してくれ、私たちはそれを受けついできました。これからも、もっともっとこの愛鳥活動を発展させていきたいと思っています。

総会報告

まず、昭和56年決算は下記の通りになりましたが事業計画とともに全会一致で承認されました。役員改選については、一部交替を除き、会長始め、理事の方々には引続き、役員をお引き受けいただきました。新理事は下記の先生方です。また、今年から常務理事のメンバーに世田谷区城山小学校の村口末弘先生に加わっていただくことになりました。

久積康男 八王子市立恩方第二小学校
 西本洋一 教賀市立松原小学校
 長谷川忠臣 犬山市立今井小学校
 村口末弘 世田谷区立城山小学校



〔事業計画〕

1. 会報「愛鳥教育」7～9号の発行
研究会報告、会員投稿記事、実績発表大会記録
2. 総会の開催 6月5、6日
決算、年間計画、役員改選
3. 研究会の開催
 - (1) 春期研究会……日光戦場ヶ原、活動発表
 - (2) 夏期研究会……8月10・11日 東京・御岳山。学校発表、観察会、意見交換会
 - (3) 冬期研究会
4. 実績発表大会に参加……11月上旬
 - (1) 研究会から審査員派遣
 - (2) 会員総合研修
 - (3) 発表記録を会報に掲載
5. 資料の集積と活用
6. 会員校へ鳥の指導員（鳥類保護連盟より）派遣仲介
7. 鳥類保護連盟・愛鳥教育計画に協力。
8. 会のPRを兼ねて「親子探鳥会」の開催

昭和56年度決算

1982. 3. 31 現在

収 入		支 出		備 考
項 目	単 位：円	項 目	単 位：円	
会 費	274,000	印 刷 費	540,100	愛鳥教育4～6号 第4・5回研究会 会誌発送、その他 寄附は主に日本鳥類保護連盟より
研 究 会 費	148,200	研 究 会 費	155,800	
貯 金 利 子	3,820	通 信 費	81,350	
寄 附	343,950	消 耗 品 費	2,500	
前年度繰越金	424,460	次年度繰越金	32,680	
合 計	812,430		812,430	

第5回 少年少女『愛鳥』作品コンクール

— 感動したことを作文にしてみませんか。

テーマ 野鳥の愛護と自然保護をテーマにしたものなら、なんでも自由。

対象 小・中学生。学級学校単位での応募も可。

募集作品 詩と作文。詩は400字詰め原稿用紙で2枚まで。作文は5枚まで。観察記録、創作ものがたりは10枚まで。（作品は必ず自分で書いたもの、また、他に発表していない作品にかぎる。）

募集期間 昭和57年5月10日～9月20日

送り先 〒104東京都中央区築地5-3-3築地

浜離宮ビル 朝日学生新聞「愛鳥作品コンクール」係（作品の裏にも、郵便番号、住所、名前、学校名、学年、電話番号を書く）

問合せ Tel 03-545-5222（直通）

入選発表 昭和57年10月下旬。朝日小学生新聞、また朝日ウィークリー紙上で。

◇意見交換会の記録◇

6月5日

自己紹介を兼ねて、今かかえている問題、感想等を話していただいた。以下、参加校、参加者の紹介を含めて学校ごとにまとめて報告したい。

○東京都世田谷区立船橋小学校

よく見る、よく知るということから愛鳥活動を進めていきたい。現在、どのように活動を進めていくか、模索中である。

○東京都世田谷区立二子玉川小学校

なぜ、愛鳥教育をすすめるのか疑問をもっていたが、活動が続けることによりその意義が分かってきた。地道な活動が続けたい。

地域から始まり、地域に地味な形で入っているこの息をたやさないようにしたい。

○東京都世田谷区立赤堤小学校

クラブ組織として3年間活動を進めてきた。校内に広めていきたい。自然観察という広い面からとらえ、独自の方向を見出したい。子どもに自然保護の気持ちを養うには、教師の姿勢、関心が大切。

○東京都世田谷区立城山小学校

愛鳥教育をすすめることに意義を感じている。

○東京都稲城市立第七小学校

地域性を生かした活動を深め、地域を変えていく力を子どもに養いたい。子どもたちに教えることは、環境を守るしかないということ。教科では、総合的な活動をして、情操を高めたい。組織として取り組みを深めるにはどうしたらよいか。また、仲間が増えることが大切なので、活動を広げたい。活動が続けることにより子どもの変容が目に見えてきている。

○愛知県豊橋市立豊岡中学校（豊田先生）

身近にある自然を大切にすることから進めている。

○埼玉県越谷市立越谷小学校（松本先生）

鳥類保護連盟に個人的に加入している。学校でのとりくみはないが、クラスでやっている。

○福井県敦賀市松原小学校（西本先生）

クラブ組織として活動が続けているが新しく担当になったので研修したい。まず活動が続けていくことが大切であろう。

○江袋先生（愛鳥教育研究会理事、前二子玉川小学校長）

愛鳥教育が単に特別活動だけで行うことは難しさがあつた。学校裁量時間ができて活動しやすくなった。その面から研究発表をし、教科の面でも生かせる見通しが立った。

○鈴木鳥類保護連盟理事

1単位時間の中で鳥を扱うことには困難さがあるが、教師の意欲を高めることによって支えていただきたい。

○下田先生（愛鳥教育研究会常任理事 前戸倉小学校長）イギリスの理科教育「Five of thirteen」の考え方は「どんな科学が子どもによいのか」という立場で進められている。既成の知識体系を子どもに与える方法では、主体的な思考は育たない。子ども自らが科学するという立場で、愛鳥教育を推進したい。そのためには、地域性を生かし、各学校独自の方法で愛鳥教育をすすめ、それを出しあうことを大切にしていきたい。

6月・日光の鳥たち

探鳥コース

- (1) 光徳牧場周辺 6月5日午後2時～3時
- (2) 中禅寺湖周辺 6月6日午前4時～7時
- (3) 戦場ヶ原（湯滝－湯川－泉門池－青木橋－戦場ヶ原－赤沼）6月6日午前9時～午後2時

トビ・カラスより大きな鳥で黒の強い褐色。尾の凹が目立つ。戦場ヶ原で上空を飛翔。

マガモ・アヒル位。オスは頭が緑。メスは全体が褐色。湯川で番を、泉門池でオス10羽位の群を。

キジバト・ハト位、全体に茶と灰色。首にコバルト色の斑、戦場ヶ原、光徳で少し見られた。

カッコウ・ハト大、全体に灰色、長めの尾がスマート。光徳や戦場ヶ原でカッコー、カッコーと声がしばしば聞かれた。

ホトトギス・カッコウと姿は似ているが、ホトトギスと名前の通り鳴く。光徳や戦場ヶ原でわずかに聞いた。

ヨタカ・ヒヨドリ大、全身褐色、こまかい模様がある。夜ホテル周辺で声が聞かれた。

アマツバメ・翼がすごく長くてスマート。昼食を食べた青木橋上空。

アオゲラ・全身緑色のキツツキ。光徳でチラッと、また早鳥探鳥でホテルのそばで。

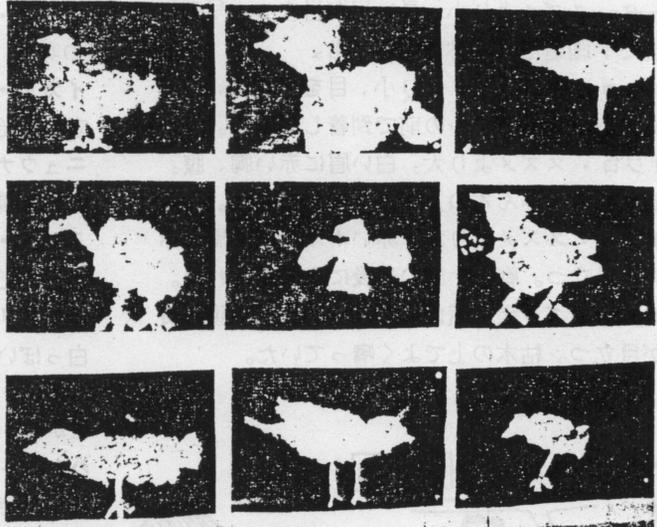
アカゲラ・ヒヨドリ大で、白と黒のまだらの身体。光徳で一番最初に全員でみられた鳥。

工作コーナー

鳥のちぎり絵

製作：大分県築後市立豊洋小学校

会員の郷司先生が指導している豊洋小学校では、愛鳥週間に鳥の勉強とともに図画、工作にも全学年が取り組んでいます。1・2年生は「ぬり絵」、3年愛鳥ポスター、4年親子巣箱作り、5年鳥のブローチ作り、6年鳥の彫塑（石けんが材料）を作りました。ここにあげた写真は過去の例ですが、新聞紙をちぎって黒い模造紙にはりつけたものです。身近にある材料を使ったおもしろい作品です。



夏・御岳山研究会のご案内

恒例の御岳山での研究会です。初日はスライドによる野鳥の勉強、翌朝は探鳥をして実際の鳥を見ます。さらに昨年の発表大会で文部大臣賞を受賞した小・中学校の発表の時間もあります。お誘い合せの上、ご参加下さい。

場所 御岳山ビジターセンター

日時 8月10日午後1時同センター集合
11日午前11時30分開散

講習 「野鳥について」「御岳山の野鳥」

交通

東京駅	中央線 45'	立川駅	青梅線 45'	御岳山駅	バス 10'	滝本	ケーブル 8'	御岳山	徒歩 10'	御岳山 ビジター センター
	立川行 高尾山行		奥多摩行		滝本行					

学校発表・「葦毛の保護活動」

愛知県豊橋市立豊岡中学校

「地域に根ざした活動」

東京都西多摩郡戸倉小学校

申込 8月5日までに申込金 1000円(小額切手・小替為)に名前、所属、性別、連絡先をそえて、また、それ以降は電話でお願いします。

参加費 5000円(1泊2食付+資料代)

第7号目次

- いま、なぜ愛鳥教育なのか.....(1)
- 第6回研究会の報告
- 発表「街の中の野鳥」..... 赤城敏子(1)
東京都世田谷区立二子玉川小学校
- 総会の報告.....(4)
- 意見交換会の記録.....(5)
- 6月・日光の鳥たち.....(6)
- 工作コーナー・ちぎり絵.....(8)

●今号は日光の研究会の報告が主なものとなりました。夏期休暇中に御岳山でも研究会を開きますので、他の先生方にもお声をかけてみて下さい。●鳥に関する質問に

は下記の連盟で答えてもらえます。手紙や電話でお気軽にどうぞ。また、自然保護を訴えたスライド(25分)「私たちと野鳥」を貸し出していますので、ご利用下さい。

愛鳥教育 No.7

1982年7月1日

愛鳥教育研究会 発行

〒150 渋谷区宇田川町37-10 405

(財)日本鳥類保護連盟内

TEL 03 - 465 - 8601

振替 東京2-92041